



国臨協関信

HPアドレス [http:// kanshinshibu.org](http://kanshinshibu.org)

平成26年 8 月

事 務 局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
発 行 者 峰岸正明
編集委員 金子 司・瀬下明子・山崎直樹
印 刷 所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第42回 国臨協関信支部学会



輝く未来へ！
プロフェッショナルとしてチャレンジ

日時：平成26年9月13日（土）

場所：国立国際医療研究センター 国際医療協力局

【学会会場案内図：国立国際医療研究センター】



■地下鉄

- 都 営 大 江 戸 線：若松河田下車徒歩5分
- 東京メトロ（東西線）：早稲田下車徒歩15分

■都営バス

- 宿74系統：新宿駅から医療センター経由女子医大行き
国立国際医療研究センター前下車 徒歩0分
- 橋63系統：大久保・新大久保から新橋行き
国立国際医療研究センター前下車 徒歩0分
- 橋63系統：市ヶ谷・新橋から 小滝橋車庫行き
国立国際医療研究センター前下車 徒歩0分
- 飯62系統：都営飯田橋駅前(C1/C3出口)から
小滝橋車庫(牛込柳町駅経由) 国立国際医療研究センター
前下車 徒歩0分



COOL BIZ宣言

学会には、どうぞ涼しげな軽装でご参加ください。
支部役員もノーネクタイで務めさせていただきます。

第42回 国臨協関信支部学会

特 別 講 演

臨床検査を楽しもう！

楽しく検査することから、近未来を考える。

小 松 和 典 (国立病院機構本部医療部医療課 臨床検査専門職)



私が国立医療機関に採用になってから35年が経ってしまった。その間にはいろいろなことがあったが、幸いにも私自身が臨床検査という仕事を嫌だと感じたことはほとんどない。先日、第16回日本医療マネジメント学会が開催され、奇しくも「楽しく働く」ということが学会テーマであった。「楽しく働く」というテーマに対して皆さんはどのように考えるでしょうか。そして、なぜ今このようなテーマなのでしょう。私自身は、私生活が充実していなければ良い仕事は出来ない、と考えてきた。あたりまえの話であるが、これがなかなか難しい。日常での満足度は常に変化する上に、向上心が旺盛(有り体に言えば欲張り)で、これで満足という点はなかなか見つからないからである。私たちの周りには公私ともにたくさんの"大変なこと"があり、毎日の仕事に向き合うエネルギーやモチベーションを維持することがとても難しい時代になっている、ように思う。検査のことが大好きで、寝食を忘れるくらい仕事して周りに心配かけようような技師は、めっきり少なくなった。その一方で、検査技師としての専門性を追求し、客観的な評価を得るための認定資格の取得に情熱を注ぐ傾向は続いている。とても嬉しく頼もしいことだが、認定資格は何のために取得するのか、取得した後でどう検査に向き合うのかを考える認定技師になってほしい、と考えるのは私だけかも知れないなあ。

論理的な教育システムを作っても、人が人を育てるということは、育てる側も育てられる側もそれぞれに情熱を持たなければできないことである。最近では、情熱だけではどうにもならないことが多くなり、十分な愛情がとても重要な要素にもなっている。人と人の関係性において愛情は最も大切な要素だと改めて考えさせられる。やはり肝心なのは人間関係なのだなあ、とつくづく感じている。

臨床検査には確実に明るい未来があると私は信じている。これからは臨床検査が医療にとって、そして国民にとって必須の存在であり続けたいとする、その未来を実現するためには、まず自分たちが「楽しく働く」ことを意識することがとても大切なことではないだろうか。そのことを心に留めていただき、そして近未来の臨床検査を皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。

【講師プロフィール】

略 歴

昭和52年 北里大学卒業
昭和52年 東京女子医大消化器病センター
昭和53年 国立病院医療センター
平成元年 国立療養所千葉東病院 主任臨床検査技師
平成8年 国立療養所中信松本病院 副臨床検査技師長
平成10年 国立千葉病院 副臨床検査技師長
平成15年 国立病院横浜医療センター 副臨床検査技師長
平成19年 NHO長野病院 臨床検査技師長
平成22年 NHO東京病院 臨床検査技師長
平成24年 NHO東京医療センター 臨床検査技師長
平成22年 厚生労働省医政局指導課
医療関連サービス室併任 室長補佐
平成24年 国立病院機構本部医療部医療課併任 臨床検査専門職

役員歴

厚生省臨床検査技師協会 (現国臨協)	理事
国立病院臨床検査技師協会関信支部	会計監査
国立病院臨床検査技師長協議会	副会長 会長

ルーチンアドバイザーによる分科会

渡 辺 靖 (国臨協関信支部 ルーチンアドバイザー委員長)



今回の関信支部学会において学会テーマ「輝く未来へ！～プロフェッショナルとしてチャレンジ～」の名の下、部門単位での分科会が開催されます。この分科会は、“若手技師の育成”“スキルアップ”をテーマとし、ルーチンアドバイザー (以下RA) が中心となり開催されます。RAは、以下の活動を通じ、知識・技術の向上並びに情報交換により会員相互のコミュニケーションを円滑に図ることを目的に選ばれた委員です。

RAの活動内容

- 1) 検査時の問題点及び疑問点のサポート
- 2) Q&A等、共有すべき学術的情報の提供
- 3) 支部学会の学会賞抄録審査等、学会運営サポート
- 4) 支部研修会、地区会研修会、支部ニュース等への学術的サポート
- 5) その他、本会の目的達成に必要な事業

これまで、検査時の問題点・疑問点のサポートおよび支部学会の抄録審査が主な活動でしたが、今回の分科会が始めての学会内活動となります。

今回の分科会は、検体検査部門 (生化学・血清)、微生物検査部門、病理検査部門、生理検査部門の4グループに分かれ行われます。各部門のRAがテーマに沿った内容を企画致しました。その内容は、業務を行う上で知っておかなければならない知識、リスクマネジメント、部門における現状把

握と問題点の提示、検査技術の紹介とさまざまです。ここで各部門のテーマを紹介します。

検体検査部門 (生化学)

- ・測定結果に影響を及ぼす変動要因

検体検査部門 (血清)

- ・B型肝炎対策

微生物検査部門

- ・細菌検査の適正な実践を考える
～過剰な検査していませんか？～

病理検査部門

- ・感染対策、検体取り間違いや紛失、コンタミなどの医療安全

生理検査部門

- ・㊤公開一私の超音波走査術&検査士育成プログラム

昨年「臨床検査技師のためのキャリアパス」が発刊され、スキルアップ、人材育成が重要であることは、皆様も共通の認識をお持ちであると理解しております。今回の分科会が、皆様のスキルアップに多少なりともお役に立つことができると考えております。また、日頃「RAってどんな人？」「RAは何をやる人？」と思われる方もいらっしゃると思います。そんな方々にRAの役割を少しでも理解していただく機会になれば幸いです。当日は、各部門において皆様の業務に対するご質問や分科会・RAに対するご意見も頂戴できればと考えております。よろしくお願い致します。

第42回 国臨協関信支部学会日程表

会場名	5階大会議室 第1会場	4階セミナールーム 第2会場	4階第1会議室 第3会場	研究所大会議室A・B 第4会場
8:30	《総合受付》 (8:30～14:00) 総合受付は5階ロビーとなります ※演者は総合受付の後、各会場入り口でスライド受付をしてください			
9:00	《開会式》 (9:00～9:10)	《開会式》	《開会式》	
	《一般演題》	《一般演題》	《一般演題》	
9:30	1～6 生理	18～22 免疫血清・臨床化学	32～34 病理	
10:00	7～12 生理	23～27 一般・血液	35～36 輸血	
10:30	13～17 生理	28～31 微生物	37～40 その他	
11:00			41～45 その他	
11:30	(9:10～11:45)	(9:10～11:18)	(9:10～11:19)	
12:00	昼食休憩 (12:00～13:00)			
12:30	地下1階 職員食堂（ピアンモール）、 売店などを ご利用ください			
13:00	《部門分科会》 生理検査部門：㊟公開一私の超音波走査術& 検査士育成プログラム	《部門分科会》 検体検査部門(生化学)： 測定結果に影響を 及ぼす変動要因 検体検査部門(血清)： B型肝炎対策	《部門分科会》 微生物検査部門： 細菌検査の適正な 実践を考える ～過剰な検査して いませんか？～	《部門分科会》 病理検査部門： 感染対策、検体取 り間違いや紛失 コンタミなどの医 療安全
13:30				
14:00	(13:00～14:30)	(13:00～14:30)	(13:00～14:30)	(13:00～14:30)
14:30	休憩 (14:30～14:40)			
	《特別講演》 (14:40～15:40)			
15:00	臨床検査を楽しもう！ 楽しく検査することから、近未来を考える。 講 師：小松 和典			
15:30	(国立病院機構本部 医療部医療課 臨床検査専門職)			
	休憩 (15:40～15:50)			
	《学会セレモニー》(15:50～16:20)			
16:00	閉会式			
16:30	《意見交換会》(16:30～18:30)			
	地下1階 職員食堂 (ピアンモール)			
18:30				

支部長挨拶



NHO千葉医療センター
峰 岸 正 明

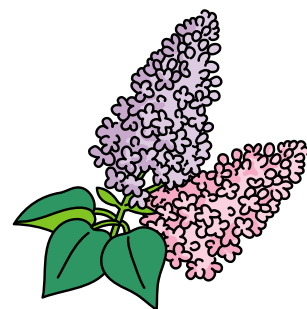
4月19日に開催されました定期総会にて、平成26年度の役員が承認され支部長を任されることになりました。浅里前支部長を中心とした執行部の方々の努力により第41回国臨協関信支部学会や東京、埼玉、山梨に新地区会が発足するなど支部会務の発展、充実がなされたことに感謝申し上げます。この流れを途絶えさせること無くさらに継続し、「会員に必要とされる関信支部」をめざして新役員一同力を合わせて会務を行ってまいります。

さて、ここ数年の支部主催研修会ではISO 15189取得、人材育成に関する研修会やキャリアパスに関する研修会などを開催しています。これらの内容は、国臨協本部、技師長協議会などの事業と連携した内容となっており、今後も国臨協本部、技師長協議会および臨床検査専門職と連携しながらタイムリーな研修会が行えるように会務を進めてまいります。

第42回国臨協関信支部学会は、開催日が9月13日、テーマを「輝く未来へ！プロフェッショナルとしてチャレンジ」として準備を進めています。また、横浜の地で11月に開催されます総合医学会についても担当支部としてこの学会を盛大に執り行えるよう準備を進めております。両学会につきまして会員皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

地区会につきましては、既存の地区に加えて新しく埼玉地区、東京地区、東京・山梨地区（仮称）と3地区が発足し、全部で10地区となりました。国臨協関信支部は各地区会が活発な活動ができるようにバックアップしたいと考えております。また、今年度の地区会との共催による研修会は埼玉地区会と行う予定としております。活発に開催されている各地区会活動は、支部ニュースやホームページを通して他地区の会員へお知らせいたしますので、数多い情報提供をお願いします。各地区会の活発な活動が、関信支部の活性化に繋がっていくものと考えております。地区と支部が相互に連携し共に発展していくことが重要と考えております。

新役員一同、力を合わせて会務を執り行なってまいりますので今後とも、より一層のご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



支部長退任挨拶



NHO東京病院
浅 里 功

平成23年度より副支部長1期、支部長2期を務めさせていただきました。任期中は、会員皆様にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、支部長就任時より「会員の身近に位置する関信支部」に努め、「現状否定の精神」を心がけ、役員一同全力で会務に取り組んでまいりました。大方の目標は達成できたものと自負しておりますが、ひとえに抜群のチームワーク、楽しき良き仲間である役員一同のご協力に心より感謝申し上げます。また、国臨協本部、技師長協議会、本部・ブロック専門職など関連部門の皆様には絶大なるご支援を賜り紙面を借りて御礼申し上げます。

3年間で特に思い出深いのは、平成24年の第40回関信支部記念学会において学会長を務めたことです。20年前の第20回関信支部記念学会（平成4年）では、学術担当理事として一年前から会場探し（科学技術館）や記念誌編集（20年分）を担当いたしました。20年を経て第40回では学会長として関わることとなり想いを

超えた巡り合せを感じました。

また、この年は会員の急逝が相次ぎ、将来を担う優秀な人材の損失に多くの方が喪失感を抱かれたのではないのでしょうか。記念学会は既に通過点となりましたが、峰岸支部長のもと支部学会が新たな歴史創生に向け飛躍、発展することと期待しています。

研修会関係では、関連部門と連携して人材育成を目標に取り組みました。近年ではその効果として若手技師の学会や研修会、文化活動（合同交流会、ビアパーティー等）への参加が顕著で嬉しい限りです。しかし、苦言を呈するなら、今後は中堅技師の意識改革や育成が急務であり、関連部門と連携して積極的に取り組むことが重要と考えています。

組織関係では、懸案事項であった埼玉地区会、東京地区会、東京・山梨地区会の3地区会が新設されました。今後は、地区会を通じて施設交流が図られ、会務活動が若手・中堅技師の人材育成に繋がるものと確信しています。

最後に関信支部の発展と会員皆様のご多幸、また、第68回国立病院総合医学会が盛会に執り行われますよう祈念して退任挨拶といたします。ありがとうございました。

臨床検査専門職に就任して



独立行政法人国立病院機構
関東信越グループ 医療担当
野 田 岳

本年4月1日付で独立行政法人国立病院機構関東信越グループ医療担当臨床検査専門職を拝命いたしました野田 岳でございます。今回、本紙面をお借りして皆様に就任のご挨拶をさせて頂く機会を得ましたことを、心より感謝申し上げます。

また、前ブロック事務所臨床検査専門職であられた上條敏夫先生におかれましては3年間、関東信越管内職員のためにご尽力され本当にご苦労様でした。心より御礼申し上げます。

さて、国立病院機構は4月より第3期中期計画が始まりました。そのような中で診療報酬改定など、医療を取り巻く環境は年々厳しさを増すばかりで、臨床検査部門に対しても決して順風満帆とは行かないようです。このような時期に臨床検査専門職という重職を担うことになり、その責務の重みをひしひしと感じている次

第であります。また、本年6月に独法通則法が国会を通過いたしました。平成27年4月の非公務員化へ向けて前進しました。今後、新たな方向性が出てくると思います。私は臨床検査専門職として誠心誠意職務に励むつもりですが、その中でも「スピード感ある情報の提供」や「研修会の新たな企画」を進めて行きたいと考えております。しかしながら、私一人では何もできませんので、是非、皆様のいろいろな情報や声をお聞かせください。現在臨床検査部門は、病院はじめ様々な方面から期待されており、我々は検査のプロフェッショナルであることはもちろん、チーム医療の一員であること、また病院経営の局面においても参画することが求められ、柔軟かつ積極的に業務に当たらなくてはなりません。そのためには一人一人が積極的に目標を持ち、自らのレベルアップを図る事がとても大切です。専門職という立場は皆様の代弁者であると考えております。様々な面から皆様に応援して行きたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

臨床検査専門職 退任のご挨拶



NHO西埼玉中央病院
研究検査科 臨床検査技師長
上 條 敏 夫

本年4月1日付をもちまして、独立行政法人関東信越ブロック事務所統括部医療課臨床検査専門職の併任を終了し、後任の野田岳専門職にその職を託すことになりました。

平成23年4月1日付でNHO西埼玉中央病院臨床検査技師長へ昇任と同時に臨床検査専門職の重責を担うことになり、大きな重圧を感じながらのスタートでしたが、機構本部専門職、国臨協本部、関信支部、技師長協議会の方々や各施設の技師長をはじめとした支部会員皆様の暖かいご支援とご協力により、なんとか3年間の職務を全うすることができました。また、ウィルス感染情報や検査試薬共同購入、ブロック主催研修等におきまして、多くの方々にお力添えいただきました。この誌面をお借りして、改めてお世話になりました皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。

併任期間中は常に様々な状況の中、悪戦苦闘の毎日をご過ごしてまいりました。各施設とも経営改善や医療

連携、医療の質向上にともなう検査部門の充実強化を求められる中、人事関連等を含め、組織として、そして皆様のために専門職としての対応が常に適切かと日々悩み苦しんだときもありましたが、皆様に励まされ、またお力を貸していただいたことにより、数々の難局も乗り越えることができたと感じております。

今後は、西埼玉中央病院の臨床検査技師長として、今まで併任業務により苦勞をかけた検査科スタッフに感謝し、自施設の管理運営に力を注ぐとともに、関信支部の一会員として支部活動を応援したいと思っております。

また、後任の野田岳専門職も国立病院機構組織の変革期での併任職務となりますので、私同様に皆様の多大なるご協力とご支援を是非ともお願い申し上げます。3年間本当にありがとうございました。



平成26年度 国臨協関信支部役員紹介



職名	氏名	役務	施設名
支 部 長	峰 岸 正 明	総 括	NHO千葉医療センター
副支部長	岩 崎 康 治	総括補佐・学術	NHO下志津病院
副支部長	金 子 司	総括補佐・広報	NHO栃木医療センター
事務局長	後 藤 信 之	事 務 局	NHO災害医療センター
理 事	菊 池 智 晶	会 計	NHO埼玉病院
理 事	荘 司 路	学 術	国立がん研究センター中央病院
理 事	瀬 下 明 子	広 報	NHO東京病院
理 事	瀬 戸 茂 誉	事務局総務	NHO東京医療センター
理 事	手 塚 俊 介	事務局総務・学術	国立国際医療研究センター病院
理 事	寺 戸 一 昭	広 報 ・ HP	国立国際医療研究センター国府台病院
理 事	長 井 俊 道	学 術	NHO横浜医療センター
理 事	平 原 学	学 術 ・ HP	NHO下総精神医療センター
理 事	山 崎 直 樹	広 報	NHO神奈川病院
顧 問	浅 里 功		NHO東京病院
相 談 役	野 田 岳		NHO高崎総合医療センター
会計監査	吉 川 英 一		国立がん研究センター東病院

第一回 国臨協関信支部主催研修会特別講演を拝聴して



NHO千葉医療センター
飯 田 好 江

平成26年4月19日（土）、アルカディア市ヶ谷において「第一回国臨協関信支部主催研修会特別講演」が開催されました。

第一部は、NHO関東信越ブロックの前臨床検査専門職上條敏夫先生より「新年度の始まりと今後へのメッセージ」と題し、講演をして頂きました。国立病院臨床検査技師協会の組織とは何か？から始まり、臨床検査技師の役割や使命そしてこれまでの取り組みについて学びました。臨床検査技師の永遠のテーマである「検査の質の向上」には、人材育成や検査に対する熱意と責任を再認識しました。上條先生が最後に言われた、「One for All」一人はみんなのために頑張る意識を持つ事。また、「Let's change」これからは一人一人

が今までの殻に閉じこもること無く変革していく事が大切との言葉を拝聴し、4月から配属されたCRC（治験）業務について、臨床検査技師の立場で出来ることを積極的に取り組むようにしたいと思います。

第二部は、NHO関東信越グループの臨床検査専門職野田岳先生より「若手からベテランまで全ての技師のレベルアップを目指して自分ができることは」と題し、講演をして頂きました。歴代の専門職に負けてない意気込みを感じ、これから自分も気持ちを新たにしていこうと思いました。また、当院には若手の技師が多数採用されていますので、技師長はじめ他の主任技師と協力して、若手技師が成長できるように力を尽くしていきたいと思っています。

最後になりましたが、講師の先生方はじめ研修会を企画開催していただきました関信支部役員の皆様、深く御礼申し上げます。



第42回 国臨協関信支部定期総会議事録(要旨)

開催日時：平成26年 4 月 19日(土) 13時00分～14時00分

開催場所：アルカディア市ヶ谷 6F 霧島

出席者数：出席者：192名、委任状：78名、書面表決：194名

1. 開会の辞

定刻どおり後藤事務局長より第42回国臨協関信支部定期総会開会の辞があった。

2. 議長選出、書記任命

議長選出について、総会出席者より立候補者がいないため、執行部より、NHO下総精神医療センター 今村ちさ氏を推薦し、出席者の拍手をもって承認された。

今村議長より、書記として国立国際医療研究センター病院 手塚俊介氏ならびにNHO神奈川病院 山崎直樹氏の2名が選任され、出席者の拍手をもって承認された。

3. 資格審査報告

議長より資格審査報告があり、本日の出席者192名、委任状によるもの78名、計270名で会員数の過半数を超えており、規約第14条3項に基づき本総会の成立宣言があった。

4. 支部長挨拶

本日は、ご多忙の中また休日の中に多数の方々にお集り頂き有り難うございます。平成26年度からは、東京・埼玉・山梨地区会が設置されます。今後は、地区会が施設または人材交流のツールの場として活用され、若手人材育成に地区会をご利用下さい。平成25年度活動報告内容及び平成26年度事業方針案についてご審議よろしくお願ひします。

5. 議案審議

1) 平成25年度経過報告(定期総会議案書参照)

・後藤事務局長より総括報告があり、瀬戸理事より事務局経過報告、長井理事より学術部経過報告、平原理事より広報部経過報告および金子副支部長より東京・埼玉・山梨地区会設置推進部会経過報告があった。

2) 平成25年度会計報告(別紙配布資料参照)

・長島理事より平成25年度会計報告があった。

3) 平成25年度会計監査報告

竹下会計監査(国立精神・神経医療研究センター病院)より会計監査報告があった。
・平成26年4月12日(土)国立国際医療研究センター病院において、下記の通り会計監査を実施したので報告いたします。

①監査内容：平成25年度会計

②講 評：会計の予算執行は適正であり、収入支出台帳をはじめ帳簿整理、証拠書類、預金通帳、現金管理等すべて適正に行われていることを認めます。

今年度は国立病院総合医学会時に開催される諸会議の担当支部であるため、より一層透明性のある会計執行を要望します。

【質疑応答】

質疑なし。

平成25年度経過報告、平成25年度会計報告、平成25年度会計監査報告は拍手多数により賛成多数と認められ承認された。

4) 第1号議案 平成26年度事業方針(案)(定期総会議案書参照)

・後藤事務局長より事務局事業方針(案)
・川上理事より学術部事業方針(案)
・小池理事より広報部事業方針(案)について提案された。

【質疑応答】

質疑なし。

第1号議案は書面表決194名及び拍手多数で賛成多数と認められ承認された。

5) 第2号議案 平成26年度予算(案)

・長島理事より平成26年度予算(案)について提案された。

【質疑応答】

質問：小松技師長(NHO東京医療センター)：広告収入が前予算より下回っている。活動自体に支障はないか。

回答：浅里支部長：広告収入に頼らない支部活動を目指している。広告収入はすべて抄録集などに充てているため会計執行には問題はない。

第2号議案は書面表決193名及び拍手多数で賛成多数と認められ承認された。

6) 第3号議案 第68回国立病院総合医学会へ向けて

・平成26年度に第68回国立病院総合医学会が横浜で開催される。関信支部は、平成25年度から関係部門との連携を深めて準備を進めている。会員ならびに各地区会長皆様方への学会準備へのご協力とご支援をお願いしたいと提案された。

【質疑応答】

質疑なし。

第3号議案は書面表決194名及び拍手多数で賛成多数と認められ承認された。

6. 役員選出および新旧役員挨拶

樋口役員推薦委員長(国立国際医療研究センター国府台病院)より国臨協関信支部役員推薦規程により、平成26年度役員案が提案された。(スライドにて役員案呈示。)

支部長	峰岸 正明	NHO千葉医療センター	(新任)
副支部長	金子 司	NHO栃木医療センター	(留任)
副支部長	岩崎 康治	NHO下志津病院	(新任)
事務局長	後藤 信之	NHO災害医療センター	(留任)
常任理事	瀬司 路	国立がん研究センター中央病院	(留任)
常任理事	瀬戸 茂誓	NHO東京医療センター	(留任)
常任理事	手塚 俊介	国立国際医療研究センター病院	(留任)
常任理事	寺戸 一昭	国立国際医療研究センター国府台病院	(留任)
常任理事	長井 俊道	NHO横浜医療センター	(留任)
常任理事	平原 学	NHO下総精神医療センター	(留任)
常任理事	菊池 智晶	NHO埼玉病院	(新任)
常任理事	瀬下 明子	NHO東京病院	(新任)
常任理事	山崎 直樹	NHO神奈川病院	(新任)
顧問	浅里 功	NHO東京病院	(新任)
相談役	野田 岳	NHO高崎総合医療センター	(新任)
会計監査	竹下 昌利	国立精神・神経医療研究センター病院	(留任)
会計監査	吉川 英一	国立がん研究センター東病院	(新任)
役員推薦委員長	長田 裕次	国立療養所栗生楽泉園	(新任)
役員推薦委員	藤澤 紀良	NHO水戸医療センター	(新任)
役員推薦委員	水島美津子	NHO西新潟中央病院	(新任)

拍手多数で承認された。

・退任役員挨拶

浅里支部長、野田副支部長、小池理事、川上理事、長島理事より退任挨拶があった。

・新任役員挨拶

峰岸支部長より平成26年度役員ならびに事業方針のご承認を頂きありがとうございました。会員皆様のお力をお借りし、会務に取り組んでいきたいと思っておりますのでご協力のほどよろしくお願いいたしますと挨拶があった。

7. 議長、書記解任

今村議長より本総会の書記が解任され、議長退任の挨拶があった。

8. 閉会の辞

後藤事務局長より第42回国臨協関信支部定期総会閉会の辞があった。

議事録署名 手塚 俊介

議事録署名 山崎 直樹

平成25年度退職会員を囲む合同交流会に参加して

NHO下志津病院 林 元 久

4月19日（土）アルカディア市ヶ谷に於いて、今回で8回目となる支部主催の"退職会員を囲む合同交流会"が開催されました。雨模様の天気の中、海原技師長・當銘技師長・宮崎技師長の3名の退職会員と、OB会会員24名、関信支部会員224名の参加で、昨年を上回る参加人数となりました。

後藤事務局長と荘司理事の進行のもと、参加された退職会員の紹介と、退任されたばかりの浅里前関信支部長と新任の峰岸関信支部長の挨拶、関東信越グループ医療担当 野田臨床検査専門職と吉田国臨協会長につづき、関信支部OB会小原会長の祝辞のあと、国立病院機構本部医療部医療課 小松臨床検査専門職の乾杯の発声で宴会が始まりました。

歓談が進むと、恒例となったスライド映写が始まり、

古き良き時代から現在までの退職会員を囲む歴史をうかがうことができ、楽しく拝見させていただきました。退職会員の周りには常に笑いと思ひ出話しが絶えず、いつしか2時間が過ぎてしまい、最後に記念撮影にて、名残を惜しみつつ閉会となりました。

重責を全うされた海原技師長と宮崎技師長、また、少しばかり早い退職になってしまいましたが、さらなる要職に就かれた當銘技師長におかれましては、これからのご活躍とご健康をお祈りいたします。最後に、この会を企画・運営をされた関信支部役員はじめ、受付や各準備にご協力下さった会員の皆様には心より感謝申し上げます。

退職会員の参加人数が減少傾向にあるということを目にしましたが、今後も継続し益々発展して行くことをお祈りいたします。



関信支部東京地区会に参加して

国立がん研究センター中央病院
柏 谷 健 勝

初夏の陽気の下、平成26年5月24日（土）に念願でありました関信支部東京地区会がスタートしました。当日はNHO災害医療センターに50名を超える方々が参加され、実りある有意義な一時を過ごすことができました。

今回の地区会は交流会と懇親会に分かれており、交流会では各施設の取り組みや特徴について、技師長の皆様からユーモアも混じえて楽しく説明をして頂きました。それぞれの施設に特徴があり、他施設に興味を抱いた方も多かったのではないのでしょうか。個人的には、災害医療センターの臨場感あふれる訓練やトリアージの仕方など、災害対策に驚きと感動を覚えました。

懇親会では、お酒の席ということもありまして、交流会の緊張した雰囲気も徐々に和らぎ、楽しそうに盃を交わす様子が印象的でした。私自身も技師として初めての懇親会でしたので、最初は緊張しておりましたが、先輩方が率先して声をかけて下さったおかげで、楽しむことができました。また、自分が興味を持っている分野について情報を交換することができ、とても

有意義でした。今後もこのような会を通して、他施設の皆さんとの交流を大切にしていきたいと思います。また、私と同様に今年度から新しく入職した技師の皆様も他施設の技師の方々と言葉を交わすのは、この東京地区会が初めてだったと思います。これを機に、東京地区会へ積極的に参加し、同世代に限らず先輩方と交流を深めていただければ幸いです。きっと、見聞も広がるのではないのでしょうか。

最後になりますが、今回の関信支部東京地区会を企画・開催するにあたって、多大なる努力をして下さった関信支部東京地区会の役員の皆様に、誌面をお借りして改めて感謝とお礼を申し上げます。



平成25年度チーム医療推進のための研修 2 (輸血研修)を受講して



NHO新潟病院
渡 部 弘 美

本研修は平成26年1月29日(水)にNHO東京医療センター3F大講堂において開催され36名が受講した。

臨床検査技師は20名程であった。患者を中心とした医療であるチーム医療への参画として、輸血業務では

自己血輸血は最も多くのスタッフが患者にかかわるため医療過誤のリスクにおいて重要になっている。自己血輸血を軸に8人の先生から講義を受けた。

まず院内調整剤である自己血輸血の安全性の確保、使用時の利点、欠点とともに種類、管理体制その適応について提示していただいた。その調整剤の安全性を考えるため、赤十字血液センターが行っている法律に基づいた安全対策、遡及調査を教えていただいた。自己血採血には学会認定の自己血輸血看護師が望ましいとされている。そのほかにも看護師はアフェレーションス、学会認定臨床輸血看護師があることを知っ

た。輸血副作用については、原因と対処の仕方を的確に行うことが必要となる。不適合輸血は、マニュアルを実践することが大きな予防対策となる。間違っって輸血された場合や、やむをえない場合でもスタッフが常に対処の仕方を共有しておくことが望ましい。次に免疫反応ではTRALIは輸血後6時間以内に発生するため患者の観察がポイントになる。GVHDは未照射のものは使用しない。感染症副作用は赤十字血液センターで高精度に安全性を確保したものでウィルスのウィンドウピリオド期に入っているものは検出できないためゼロにはできない。感染した場合に早期発見し次の感染を防ぐため各施設での対応が求められる。また、輸血によって感染した場合は救済制度があり患者の経済的負担はさけられる。

輸血に関わる一連の業務は情報の伝達が重要であり、チームの認識を同様にして望むことが医療過誤を防ぐ手立てと考えられた。スタッフ間の信頼に基づいた連携を作り、確実な情報のつなぎと伝達、記録ができる大切な役割になっていくよう日々努力したい。

平成25年度臨床検査技師実習技能研修 2 (輸血検査技師実習技能研修)に参加して

NHO東京病院 梶 原 弘 通

平成26年2月21日(金)～22日(土)の2日間に渡り機構本部研修センター及び新渡戸文化短期大学に於いて「平成25年度臨床検査技師実習技能研修2(輸血検査技師実習技能研修)」が開催され参加いたしました。

初日は午前中3講演、午後から4講演行われました。国立国際医療研究センター病院、救急科、小林先生の「救急医療現場での輸血療法」は、救急における患者観察の原則である初期評価ABCD分類、輸血トリガーなど緊急時における輸血の重要性について興味深く拝聴させていただきました。

また、比留間医院、比留間院長より「輸血療法の現在と将来の展望」について講演していただいた中で、将来の展望としてiPS細胞、STAP細胞など今後の研究によっては献血者のいらない輸血・細胞療法の確立が期待されるとありました。しかしSTAP細胞論文の今後の動向によっては、将来の展望が先に延びてしまうのが残念なところです。

2日目は新渡戸文化短期大学において講義と実習が行われました。実習は午前中に血液型検査、午後からは不規則性抗体同定検査、結果の解釈と臨床側へのコメント、質疑応答と進められていきました。

実習では研修生2名に1名の認定輸血検査技師の講師の方がついて行われ、実技の中で赤血球洗浄方法、凝集の見方、溶血の有無の確認などポイントとなる手技や着目点について細かく丁寧に指導していただきました。

2日間に渡っての実習技能研修は、私にとってはかなりハードなものでしたが、2日目の実習終了後に行われた「結果の解釈と臨床側へのコメント」について講師の方々の多方面から見た結果の解釈を拝聴し、院外の勉強会、講習会等に参加し多くの症例を学ぶことの重要性を再確認しました。

最後にご多忙の中ご講演いただいた講師の先生方、実習前日に夜遅くまで準備していただき当日は、丁寧に指導して下さった講師の先生方に心から感謝申し上げます。



平成25年度関信支部主催症例検討会に参加して



国立がん研究センター東病院
中 井 恵 子

平成26年2月15日(土)、国立国際医療研究センターにおいて、平成25年度関信支部主催症例検討会が開催されました。前日の大雪の影響で、交通機関の麻痺も懸念されましたが、多くの会員の出席があり、会場内は

熱気に満ちていました。

第1部では、座長に蓮尾茂幸先生、症例提示に中島幸恵先生を迎え、乳腺超音波領域の4症例について討議が行われました。参加施設の代表者が各症例の超音波画像を読影し、講師の先生による超音波所見に関する解説、病理組織学的な所見より講義をいただきました。私は現在乳腺超音波を担当しており、力試しをする気持ちで読影に臨みましたが、診断に悩んだ症例もありました。放射状瘢痕の症例では硬癌等の悪性腫瘍との鑑別に日々苦慮しており、画像の特徴や着眼点を講義していただき、早速検査に生かしたいと思いました。また、珍しい紡錘細胞癌の超音波画像をみることで大変勉強になりました。

第2部の教育講演では、国立がん研究センター中央病院乳腺外科医師の岩本恵理子先生による『乳腺の画像診断とインターベンション』の講義が行われました。各画像検査の特徴、読影ポイント等をわかりやすく講義していただきました。終盤にまとめられた「検査者は所見に対して理由付けをして診断し、フィードバック

クさせて自分の診断基準を向上していかなければならない」という言葉が強く印象に残り、今後その気持ちを常に持ち続けて検査に臨んでいきたいと思いました。

最後にご講演いただいた諸先生方、このような大変有意義な症例検討会を企画して頂いた関信支部役員の方々、症例を提示してくださいましたががん研究センター中央病院の皆様方に御礼申し上げます。



平成25年度日本医師会精度管理調査報告会

国臨協関信支部理事 平 原 学

平成26年3月7日(金)日本医師会館にて行われた「平成25年度日本医師会精度管理調査報告会」に出席したのでその要旨を報告します。

今年度の参加施設数は3220施設で、前年度より14施設増加した。調査項目は臨床化学25項目、免疫学検査13項目、尿検査3項目、血液学検査8項目の49項目で、前年度からの測定項目の変更は無かった。

今年度も昨年度同様インターネット回答を採用し、郵送方式と併用した。インターネット回答は2556施設(79.4%)で実施され、前年度の2399施設(74.8%)より増加した。日本臨床衛生検査技師会でも使用しているコードを基に試薬と機器メーカー誤登録の防止を行ったのでアンマッチ施設数が減少した。

集計上の問題点として、測定原理や緩衝液などでの分類間違いや、桁間違いなどの誤記入がみられた。機器・試薬分類を「製造販売元」での記載をお願いしたにも関わらず、販売元を記入した施設が少なくなかった。販売されていない機器・試薬メーカー名と測定原理の不一致例が昨年度より改善されたが、不一致率0.5%以上の項目が2項目(Alb、TG)あった。各検査室は、自施設の測定試薬のメーカー名、測定原理、基質、緩衝液、標準物質を知っておくべきとの指摘があった。

評価・評点作業について、絶対評価をコンセンサスCV値で行い、測定系の標準化や試薬・装置の精密性、safe of artを考慮して適切なコンセンサスCVを設定し、濃度・活性値が低値な場合は補正共通CV値を考慮した。尿半定量検査はランク別評価とした。臨床化学検査で、

可能な限り一群評価を試みたが、多くは原理別となった。平均値からの偏りが大きな試薬やドライケミストリー法はその程度を算出して独立評価とした。血液検査は機種群別とした。凝固検査は(機器×試薬)の群別評価とした。誤登録項目は「評価せず」とした。

《結果の講評》

1. トレーサビリティ確認は73.6%~89.1%の施設で実施されており、特に健診施設で高率であった。
2. 臨床化学一般項目、酵素項目ではバラツキが小さく、施設間互換性が確保できている状態と考える。
3. 酵素項目はJSCC勧告法、JC・ERMの普及で収束化が進んでいる。
4. 腫瘍マーカーのバラツキはあまり改善されておらず、装置・試薬間差が大きい。
5. CBCはほぼ収束している。
6. PTは試薬×装置の数が多く、バラツキも小さくなってきているが、依然として改善が必要である。
7. リウマトイド因子は施設でのカットオフ値での陽性・陰性で評価した。
8. CEAの資料11では極低値であったので、評価を考慮した。
9. インスリンは試薬間差が大きく、今後の改善が必要である。

前年度に引き続き標準物質のある生化学項目については良好な結果となった。以上、平成25年度精度管理における評価と問題点をまとめてみました。これらの点について自施設の現状を再度確認していただき、今後とも互換性のある臨床検査を社会に提供するために努力しましょう。

第68回 国立病院総合医学会

The 68th Annual Meeting of Japanese Society of National Medical Services



次世代に継ぐ医療 —元気で明るい医療の未来—

会長 工藤 一大 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター院長

副会長 樋口 進 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター院長

秋山 一男 独立行政法人国立病院機構 相模原病院院長

臨床検査 合同懇親会

開催日
平成26年11月13日(木)

開催時間
18:00~20:00

開催場所
ホテルプラム横浜

2014年11月14日(金)~15日(土) パシフィコ横浜
会議センター・展示ホールA・B

一般演題登録期間: 2014年4月3日(木)~5月22日(木) 正午
事前参加登録期間: 2014年5月27日(火)~8月28日(木)

学会の情報は
国臨協関信支部
ホームページで
随時発信してい
きます

国臨協関信支部今後の予定

* 予定は変更となる場合がありますのでご了承ください。

月	日	曜日	学 術 部	広 報	地 区 会	そ の 他
9月	13日	土曜日	第42回関信支部学会			
	20日	土曜日	第3回研修会(埼玉地区会共催)		埼玉地区会総会	
10月				関信支部ニュース第199号発送		
	4日	土曜日			神奈川地区会総会	
	11日	土曜日			群馬地区会総会	
	25日	土曜日			東京地区会総会	
11月	8日	土曜日			新潟地区会総会	
	13日	木曜日				臨床検査合同懇親会
	14日	金曜日				第68回国立病院総合医学会
	15日	土曜日				第68回国立病院総合医学会
	29日	土曜日			栃木地区会総会	
12月	6日	土曜日			東京・山梨地区会総会	

症例検討会の症例公募について 症例検討会の症例呈示施設を公募いたします

本年度の症例検討会は平成27年2月に開催する予定です。症例を呈示していただける施設がございましたら、下記連絡先までお知らせください。なお、呈示症例につきましては、発表の有無および分野等の指定はありません。応募の締め切りは平成26年9月26日(金)とさせていただきます。

■連絡先 NHO下総精神医療センター 研究検査科 平原 学

電話: 043-291-1221 (代表) E-mail: mhira27@gmail.com

人 事 異 動

【平成26年5月1日付 採用者】

氏 名	施 設 名	職 名
中野里美	横浜医療センター	技 師

【平成26年6月30日付 退職者】

氏 名	旧施設名	旧職名
竹下昌利	国立精神・神経医療研究センター病院	技 師 長
木村正行	相模原病院	技 師

編 集

後 記

暑さ厳しい日々が続いておりますが、会員の皆様は夏バテせずにお過ごしでしょうか？
原稿依頼を快く引き受けていただいた方々に感謝申し上げます。皆様の協力があって支部活動が成り立っていると改めて感じました。第42回関信支部学会も迫ってまいりましたが、多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。

広報部 山崎直樹

覚えよう 身につけよう 検査技術!

腸内細菌科の同定法 I (総論)

国立精神・神経医療研究センター病院 臨床検査部 望月 規央

はじめに

現在、多くの微生物検査室では、自動測定装置の専用パネルや簡易同定キットを用いて菌の同定が行われている。これらの方法は簡便であるが、一方で高コストかつ検査技師の経験と知識不足を招いている。今回のシリーズでは、腸内細菌科の同定法を初心者に判り易く解説したいと考えている。もう一度「IMViC試験」を思い出しながら、復習してみよう。

1 グラム陰性桿菌の分類

好気培養で発育するグラム陰性桿菌は、腸内細菌科、ビブリオ科、バクテリウム科、ブドウ糖非発酵菌群に大別される(表I-1)。腸内細菌科とブドウ糖非発酵菌は原則、血液寒天培地、チョコレート寒天培地、BTB乳糖寒天培地、MacConkey寒天培地すべての培地で発育するが、ビブリオ科、バクテリウム科は菌種によって発育できる培地が異なる。例として耳漏由来臨床分離株の培養結果を示す(図I-1)。

① *Klebsiella pneumoniae* (腸内細菌科) ④ *Pseudomonas aeruginosa* (非発酵菌群) は全ての培地に発育が認められる。② *Vibrio alginolyticus* (ビブリオ科) は食塩要求菌のため、食塩が含まれていないBTB乳糖寒天培地やMacConkey寒天培地には発育できない。③ *Haemophilus influenzae* (バクテリウム科) はXV因子要求菌のため、チョコレート寒天培地にしか発育できない。

2 腸内細菌科の定義

腸内細菌科の定義を示す(表I-2)。腸内細菌科は、ほとんどの菌種がオキシダーゼ試験陰性であり(*Plesiomonas shigelloides*のみ陽性)、簡易的な腸内細菌科の鑑別法として有用である。しかしブドウ糖非発酵菌群で、*Acinetobacter* 属、*Stenotrophomonas maltophilia* などはオキシダーゼ陰性であり、「オキシダーゼ試験陰性=腸内細菌科」とは限らない事に注意すべきである。培地集落の性状で鑑別出来ない場合、OF培地もしくはTSI培地に接種して、ブドウ糖の分解形式(OF形式)を確認する。

3 腸内細菌科の分類

腸内細菌科は、IPA (TDA) 反応、硫化水素(H_2S)産生、VP (Voges-Proskauer) 反応により、第1~4群に大別される(表I-3)。また乳糖分解群として *Escherichia* 属、*Citrobacter* 属、*Klebsiella* 属、*Enterobacter* 属があげられるが、臨床分離株の中には乳糖不分解株もあり、注意が必要である。

表 I-1 グラム陰性桿菌の分離培地での発育

分離培地	発育 (コロニーの形成)			
血液寒天培地	+	+	± ^①	+
チョコレート寒天培地	+	+	± ^①	+
BTB 乳糖寒天培地	+	± ^②	—	+
MacConkey 寒天培地	+	± ^②	—	±
TGS寒天培地	—	+	—	—
オキシダーゼ試験	— ^③	+	+	± ^④
運動性	±	+	—	±
菌 種	腸内細菌科 ビブリオ科 ^① バクテリウム科 ^② 非発酵菌群			

+: 発育あり。陽性 —: 発育なし。陰性

- ① ビブリオ科: *Vibrio* 属、*Aeromonas* 属
- ② バクテリウム科: *Pasteurella* 属、*Haemophilus* 属、*Acinetobacter* 属
- ③ *Plesiomonas shigelloides* (旧ビブリオ科)のみ陽性
- ④ *Aeromonas* 属は発育。 *Vibrio* 属は菌種の食塩要求性によって異なる
- ⑤ 発育因子、または発育に炭酸ガスを必要とする菌種がある
- ⑥ *Acinetobacter* 属、*Stenotrophomonas maltophilia*、*Burkholderia mallei* は陰性

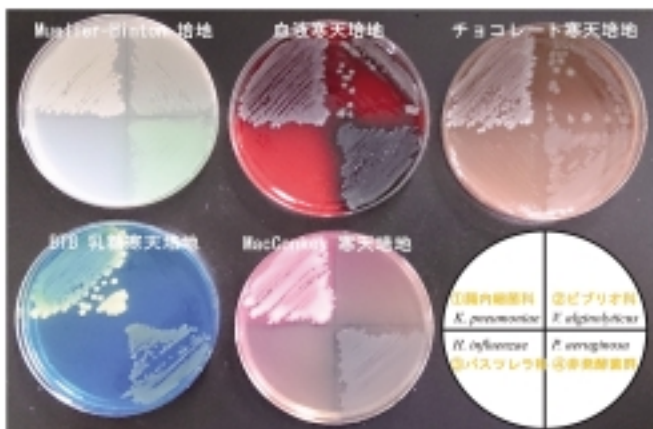


図 I-1 グラム陰性桿菌の各種培地での発育

4 腸内細菌科の同定に必要な鑑別培地

腸内細菌科の同定には、様々な反応試験および各種糖分解能の確認が必要である。腸内細菌科の同定に用いられている代表的な確認培地を示す(表I-4)。ここに挙げた確認培地で、臨床的に重要な腸内細菌科の大半が同定可能である。しかし *Salmonella* 属、*Shigella* 属、*Escherichia coli* など、血清型別試験が必要な菌種の同定には注意が必要である。

次回は「腸内細菌の同定法 II (各論)」

表 I-2 腸内細菌の定義

・ 通性嫌気性のグラム陰性桿菌 (無芽胞菌) ・ 普通寒天培地に発育する ・ ブドウ糖を24時間以内に発酵的に分解して酸を産生する (ガスを産生する菌と産生しない菌がある) ・ ほとんどの菌種が周毛性鞭毛を有して運動性がある (<i>Klebsiella</i> 属、<i>Shigella</i> 属、<i>Yersinia enterocolitica</i> は非運動性) ・ 硝酸塩を還元して亜硝酸塩にする ・ オキシダーゼ試験が陰性である (<i>Plesiomonas shigelloides</i> はオキシダーゼ試験陽性)

表 I-3 腸内細菌の生化学性状による分類

第1群	IPA反応 (+)	<i>Proteus</i> spp.	<i>Providencia</i> spp.
	H_2S 産生 (-/+)	<i>Morganella morganii</i>	
	VP反応 (-/+)	<i>Rahnella aquatilis</i>	<i>Yersinia enterocolitica</i>
第2群	IPA反応 (-)	<i>Salmonella</i> spp.	<i>Citrobacter</i> spp.
	H_2S 産生 (+)	<i>Edwardsiella urchi</i>	
	VP反応 (-)		
第3群	IPA反応 (-)	<i>Klebsiella</i> spp.	<i>Enterobacter</i> spp.
	H_2S 産生 (-)	<i>Serratia</i> spp.	<i>Haefia alvei</i>
	VP反応 (+)	<i>Cedrea</i> spp.	<i>Erwinia americana</i>
第4群	IPA反応 (-)	<i>Escherichia</i> spp.	<i>Shigella</i> spp.
	H_2S 産生 (-)	<i>Yersinia</i> spp.	(<i>Citrobacter</i> spp.)
	VP反応 (-)	<i>Salmonella Paratyphi A</i>	<i>Klebsiella</i> spp.

赤は臨床材料からの分離頻度が高い菌または臨床に重要な菌種

表 I-4 腸内細菌に用いられる確認培地

培地名	斜面	底層	注意点
TSI培地	①乳糖・白糖分解 ②ブドウ糖分解(発酵) ③ガス発生 ④硫化水素(H_2S)産生	乳糖・白糖分解 (赤→黄) H_2S 産生(黒色)	斜面が黄変の場合、乳糖が白糖の一方、または両方を分解。
SI培地	①IPA反応 ②硫化水素産生 ③インドール産生 ④運動性	IPA反応(黄層部褐色) H_2S 産生(黒色) インドール (Kovac試験→赤) 運動性(穿刺部周囲混濁)	腸内細菌科の H_2S 産生はTSI培地で判定。 IPAはKovac試験を低下前に判定。
LI培地	①リジン脱炭酸反応 ②インドール産生 ③運動性	リジン脱炭酸反応 陰性(→黄→紫)、陽性(→黄)	リジン脱炭酸反応陽性では培養中、一度黄変してから紫色に戻る。
VP半流動培地	①VP反応 (Voges-Proskauer反応)	VP反応 (95% αナフトール→桃赤色)	40% KOH試験と αナフトール試験を低下。15分後に判定。
シモンズのクエン酸培地	①クエン酸塩利用	クエン酸塩利用 (緑→黄色)	フタをきつくしめてしまふと陰性になる(空気に十分触れさせる)
ONH培地	①ONase産生	ONase産生 (青→赤紫色)	斜面部中心に一本棒を引く棒に黄を接種すると陰性菌の色調が明瞭。

参考文献

- ① John G. Holt, et al: Bergey's Manual of DETERMINATIVE BACTERIOLOGY, 9th ed. Lippincott, Philadelphia, 2000
- ② Patrick R. Murray, et al: Manual of CLINICAL MICROBIOLOGY, 9th ed. ASM Press, Washington DC, 2007
- ③ 小栗豊子 (編): 臨床微生物検査ハンドブック 第4版. 三輪書店, 東京, 2011
- ④ 日本臨床微生物学会: 腸管感染症検査ガイドライン. 日本臨床微生物学会雑誌 第20巻. 日本臨床微生物学会, 2010

- ⑤ 山中學, 吉野二男, 清水加代子 (編): 新臨床検査技師講座11微生物学 第1版. 医学書院, 東京, 1986
- ⑥ 栄研化学株式会社: 栄研マニュアル 第10版. 栄研化学株式会社, 東京, 1996